

◆特に注意していただきたいこと

イラストの横にある ㊄ マークは禁止を表します。

警告 (指示に従わない場合は死亡、または重度の障害を負う可能性があります。)

■使用済み容器(ボンベ)の処理に関する注意

- 容器(ボンベ)にまだガスが残っている場合は、そのまま温度の高い所に放置したり、火の中に投入すると爆発する危険があります。
- 容器(ボンベ)は完全に使いきってから他のゴミと区別して捨ててください。(各自治体の処理方法に従って捨ててください。)

注意 (指示に従わない場合は軽傷、または他の財物の損傷を引き起こすこととなります。)

■取扱上の注意

- 換気の十分な場所で燃えやすい物や熱に弱い物からは十分離れた場所で使用してください。
- 風の強い時は使用しないでください。
- 火災は思いつきから発生することがありますので使用の際は火の元に十分ご注意ください。
- ハンドルは、ご使用中の時以外は締めておいてください。
- ご使用にならない時は容器(ボンベ)を取り外して保管してください。
- お子様の手の届かない所に保管してください。
- お子様には使用させないようにしてください。
- ガスの噴出量を絞ったり、ガス残量が少なくなると火口先端部が赤熱することがありますが故障ではありません。但し、このような状態での長時間の使用は火口先端部の熱による酸化が進み商品寿命が短くなるので避けてください。「故障・異常の見分け方と処置方法」参照

■使用容器(ボンベ)

TRUSCOパワフルトーチ(TB-710)専用容器(ボンベ)
POWERFUL GAS TB-760

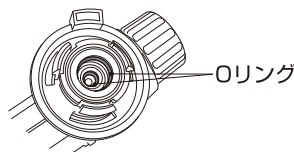
- プロパン混入でパワーアップ



◆日常の点検・手入れ

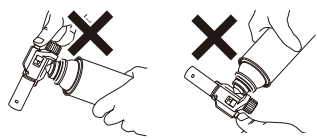
■点検・手入れの際の注意

- 日常の点検、手入れは必ず行ってください。
- 点検・手入れは消火し、容器(ボンベ)を取り外し火口、火口付近が完全に冷めてから行ってください。
- 点検方法
 - *パルプ内にOリング(リング状の黒いゴム)が2つ入っているか確認する。
 - *点火ボタンを押したとき、火口の中で青い火花が飛びか確認する。
 - *本体に汚れが目立つ場合には、乾燥した布等で拭き取ってください。
 - 故障又は破損と思われるものは絶対使用しないでください。
 - 不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お問い合わせになった販売店または、当社「お客様相談室」 ☎ 0120-509-849までご相談ください。



警告 傾けて点火しない!

点火は生ガス(気化していない白い霧状のガス)が出ないように容器(ボンベ)を水平な場所に置き、直立状態で行ってください。本体を傾けた状態で点火すると生ガスが大きく燃え上がり危険です。



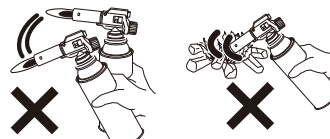
生ガスに注意

生ガスに点火すると赤い炎が大きく燃え上がり危険です。



警告 容器(ボンベ)の外れに注意!

燃焼中に、本体を激しく振ったり、落下させたり、炭の火起しの際に火口先端で炭を動かしたりしないでください。ボンベホルダーが回転し容器(ボンベ)が外れるおそれがあり大変危険です



激しく振らない! 火口で炭に触れない!

総発売元 **トラスコ中山株式会社**
〒105-0004 東京都港区新橋4丁目28番1号
お客様相談室 ☎ 0120-509-849
E-mail: techno.center@trusco.co.jp
<http://www.orange-book.com/>

製造元 **新富士バーナー株式会社**
愛知県豊川市御津町御幸浜1号地1-3
TEL0533-75-5000(代) FAX0533-75-5033
<http://www.shinfuji.co.jp/> MADE IN JAPAN



POWERFUL TORCH

このたびは、本製品をお買い上げいただきま **パワフルトーチ TB-710A** して誠にありがとうございました。
本製品を安全に正しくお使いいただくために **生産物賠償責任保険付** 取扱説明書
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき大切に保管してください。

■仕様

- サイズ:長さ132×幅34×高さ66mm
- 重量:約153g(本体のみ)
- 火口径:22mm
- 炎温度:最高1,300℃ 最低900℃
- 使用時間:約1.5時間(TB-760 1本使用時)*1
- 発熱量:2.1kW(1,820kcal/h)(RZ-760使用時)*2
- 点火方式:圧電点火方式

*1 30分の連続燃焼データより換算したものです。
*2 10分間の燃焼データを1時間に換算したものです。



◆特に注意していただきたいこと

イラストの横にある ㊄ マークは禁止、㊄ マークは強制を表します。

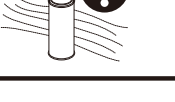
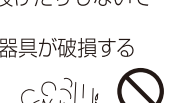
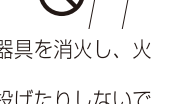
警告 (指示に従わない場合は死亡、または重度の障害を負う可能性があります。)

■使用上の注意

- 着火時および使用中は、火口を人体に向けたりのぞきこんだりしないでください。
- 使用中および使用直後は火口、火口付近が熱くなっていますので可燃物を近づけたり手を触れたりしないでください。
- 容器(ボンベ)は正しくセットしてください。容器(ボンベ)のセットが不十分だとガス漏れ事故の原因となります。
- 炭の火起こしにご使用の際は、火が起きたらすぐに器具を消火し、火元から離して置いてください。
- 火のついたまま容器(ボンベ)を取り外したり投げたりしないでください。やけど、火災の恐れがあります。
- 火口を対象物に近づけすぎて使用すると輻射熱により器具が破損するおそれがあります。

■使用容器(ボンベ)の取扱上の注意

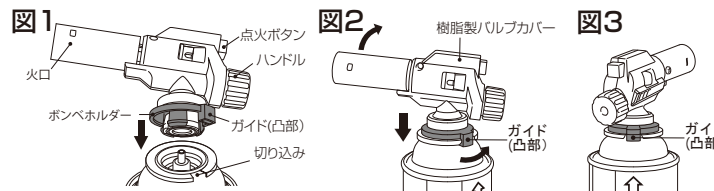
- 容器(ボンベ)は必ず専用容器(ボンベ)TB-760をご使用ください。
- 容器(ボンベ)に表示されている注意事項をよく読んでからご使用ください。
- 容器(ボンベ)の過熱により爆発する恐れがありますので以下のような行為は禁止します。
 - ・容器(ボンベ)を火の中に投げ入れる。
 - ・容器(ボンベ)をストーブ、ファンヒーターなど熱気あたる所や直射日光の当たる場所、また高温になる場所に放置する。
 - ※特に自動車内は非常に高温になりますので注意してください。
 - ・容器(ボンベ)が40℃以上になる場所で使用する。
- 容器(ボンベ)に強い衝撃をあたえないでください。
- 使用しない時は、容器(ボンベ)は40℃以下の湿度の少ない場所にキャップをして保管してください。また容器(ボンベ)はときどき点検して錆が発生している場合にはできるだけ早く使用してください。



◆使用方法

■容器(ボンベ)の取り付け

- ※容器(ボンベ)の取り付けは、容器(ボンベ)を傾けずに直立状態で取り付けてください。
- 1.ハンドルをOFFの方向へ回し、完全に閉じていることを確認します。この時、ハンドルを必要以上にきつく締めないでください。
- 2.ボンベホルダーのガイド(凸部)が所定の位置(左側に止まるまで回した位置)(図1)にあることを確認します。
- 3.容器(ボンベ)の切り込み部を、ガイド(凸部)に合わせ(図1)、矢印方向へ押し付けながら本体を右方向に止まるまで約60度回します(図2)。ガイド(凸部)が、図3のように本体のま後ろよりやや右側にある位置が取り付け完了の位置です。



注意
容器(ボンベ)取り付け時の注意
容器(ボンベ)取り付けの際はガイド(凸部)が、所定の位置(左側に止まるまで回した位置)にあることを確認してください。所定の位置以外にあると容器(ボンベ)の取り付けができません。

警告
ガス漏れに注意
ガス漏れに注意してください。容器(ボンベ)取り付け後、容器(ボンベ)のガタつきや、「シュー」というガス漏れの音やガスの臭いがないか確認してください。

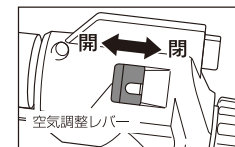
■点火

- ※点火は生ガス(気化していない白い霧状のガス)が出ないように容器(ボンベ)を水平な場所に置き、直立状態で行ってください。
- ハンドルをONの方向に回して(約90度回すとガスが出ます)ガスを出して点火ボタンを「カチッ」というまで押し続けて点火し、青色の炎が出ることを確認します。点火しない場合は、点火ボタンを繰り返し押します。

- *ガスを出し過ぎると点火しにくいのでガスの量を調整してください。
- *生ガス(白い霧状のガス)が出たときは点火せず一度ハンドルをOFFに回し、再度ハンドルをONに回して生ガスが出ないのを確認してから点火してください。

■火力調整、空気調整

- 1.火力の調整は炎を確認しながらハンドルで調整します。
 - 2.空気調整レバーをスライドさせることにより空気の流入量を調整し、火炎の温度が調整できます。使用目的に合わせて調整します。
- ※空気調整レバーの位置が左側にある時が空気孔が全開の状態です。青い高温の集中炎になります。空気調整レバーの位置が右側にある時が空気孔が全閉の状態です。柔らかな火炎になります。
- ※空気孔を閉じた状態で点火ボタンを押すと自動的に空気孔が開く構造になっています。



警告
空気孔を閉じた状態で注意
空気孔を閉じた状態で継続使用すると、逆さ使用をした際に生ガスが出て赤い炎が大きく燃え上がり危険です。その際は直立状態にして、空気孔を全開にしてください。しばらくすると正常な青色の炎になります。

■消火

- ハンドルをOFFの方向へ止まるまで回し閉じます。完全に消火したことを確認して作業を終了します。容器(ボンベ)を取り付け時と逆の手順で取り外します。

■保管

- 容器(ボンベ)は必ず外してから保管してください。長期間使用しない場合は湿気のない場所に箱または袋に入れて保管してください。そのまま放置すると虫や、ほこり等がガス通路に入り込み異常燃焼や着火不良の原因になります。

警告 真下に向けて連続使用しない

- 火口を真下に向けて3分以上の連続使用をしないでください。火口からの火炎や熱気が本体にかかり、破損するおそれがあります。

